

形容詞の名詞化に使われる 接尾辞「み」の用法の変化

田 中 幸 奈

1. はじめに

近年、若者の日常会話において「わかりみ」、「ねむみ」、「やばみ」などの言葉が使用されているのをよく耳にするようになった。これらの言葉を初めて耳にした時、少々違和感を覚えた。なぜ違和感が生じたのかを考えたところ、これらの言葉に接続されている接尾辞「み」は本来、形容詞の名詞化に使用されるものであるからだと気が付いた。接尾辞「み」はこれまで、庵・高梨・中西・山田（2000：27）のように述べられてきた。

逆に生産性の低い接辞としては、「春めく」などの「～めく」など、ごく限られた語にしか付かないものがあります。また、「～さ」と同じく形容詞に付く接辞でも「～み」は、「厚み」とは言っても「薄み」とは言えないなど、限られた形容詞と共に用いられる生産性の低い接辞です。

上記からも分かるように、接尾辞「み」は同じように形容詞を名詞化する接尾辞「さ」に比べ、限られた形容詞に接続される生産性の低い接尾辞とされてきたのだ。しかしながら、先に挙げた「わかりみ」の語基は動詞であり、「ねむみ」、「やばみ」は本来ならば、「ねむさ」、「やばさ」のように接尾辞「さ」によって名詞化されるものである。このことから考えると、接尾辞「み」の語基が形容詞だけではなくなっていること、接尾辞「さ」と接続されるはずのものにも応用されていることが分かるのではないだろうか。だが、この言葉を使用している使用者達は、接尾辞「み」が本来、形容詞の名詞化に使用されるものであることを知っているのだろうか。また、接尾辞「み」を語基に接続することで、どのような効果を得ようとしているのか疑問に感じる。そのため、本研究では、形容詞の名詞化に使用される接尾辞の「み」がなぜ「わかりみ」などのように応用され、使用されるようになったのかを先行研究の知見をまとめ、アンケート調査から口語における従来とは異なる

る接尾辞「み」の用法の使用状況の実態、従来とは異なる接尾辞「み」の用法を使用する使用者本人の意図について探っていきたいと考える。

2. 先行研究

2.1. 従来とは異なる接尾辞「み」の用法

宇野（2015）では、Twitter上に現れた形容詞に接続する従来とは異なる接尾辞「み」の用法をとるものを「新しいミ形」として定義し、Twitterのユーザーが用いる人工的に作られた語形であると考え、ネット集団語であると述べている。また、その後、宇野自身が宇野（2015）で対象が形容詞のみになっていたことを指摘し、宇野（2017）で名詞に接続する従来とは異なる接尾辞「み」、宇野（2018）でオノマトベに接続する従来とは異なる接尾辞「み」について述べている。また、宇野（2018）では新しいミ形とは主にTwitter上で用いられる形容詞、形容動詞、名詞、動詞、助動詞、接尾辞、オノマトベと様々な品詞を語基として作られた接尾辞ミの新語形であるとしている。

2.2. なぜ接尾辞「み」が応用されるようになったのか

宇野（2015）では、意味的にほとんど透明であり、品詞転換の機能しか持たない接尾辞「さ」に対し、接尾辞「み」は、「主体側にある感覚の程度」を表すことを中心的な意味として持つとしており、この接尾辞「み」が持つ機能が従来とは異なる接尾辞「み」の用法の出現に関係しているのではないかと述べている。また、従来とは異なる接尾辞「み」の用法は、形容詞言い切りの文末の断定的なそっけなさを解消することができ、使用者の「個人的な感覚」を示すことができると考え、その機能性と利便性からTwitterにおいて採用され、言語変化を起こしていったと述べている。接尾辞「み」の語基拡張について述べている水野（2017）では、従来とは異なる接尾辞「み」の用法が生まれている理由を共起する述部の観点から考察し、自分の抱いた感情を強調して表現するためには「○○み」と名詞化した語を主語や目的語にとり、共起する述部によって程度の甚だしさを表す方が様々なバリエーションを生むことが可能になり、より新鮮でインパクトの強い表現を生むためであるとしている。

2.3. 使用状況の実態

従来とは異なる接尾辞「み」の用法の使用状況の実態については、主にTwitter上のものから考察されているものがほとんどである。宇野（2015）では、初出の従来とは異なる接尾辞「み」の用法はTwitterのツイートであり、2007年に見られた「つらみ」と「ねむみ」であるとしている。形容詞においての従来とは異なる接尾辞「み」のツイート数は2007年から2014年の間の7年で4000倍にまで増えているとし、第一次拡大期は2010年、第二次拡大期は2013年であると述べている。

2.4. 使用者の意図

宇野（2015）では、従来とは異なる接尾辞「み」の用法には若者語の7つの機能¹、娯楽機能、会話促進機能、連帯機能、イメージ伝達機能、隠蔽機能、緩衝機能、浄化機能のうちの娯楽機能、会話促進機能、連帯機能、緩衝機能、浄化機能の5つの機能を備えているとし、その中でも重要なものは娯楽機能と緩衝機能と浄化機能であると述べられている。しかし、これらは従来とは異なる接尾辞「み」の用法の機能として述べられたものであり、使用者の意図については、示されていない。またその他の研究においても使用者の意図が明確に示されているものは調べた限りではなく、従来とは異なる接尾辞「み」の用法の意味機能という位置づけで述べられているものがほとんどである。

2.5. これまでの研究で明らかにされていないこと

これまで挙げてきた先行研究を見ると使用者の意図について述べられた先行研究はないと考えられる。また、これまで行われてきた従来とは異なる接尾辞「み」の用法の研究はそのほとんどがTwitter、InstagramやLINE²などのSNS上における研究に留まっており、日常会話における研究、つまりは口語における研究はあまりなされていないのである。従来とは異なる接尾辞「み」は比較的新しい語形であるとみられるため、口語における研究がなされていないということもあるだろうが、日常会話においても使用されるようになってきた現段階において、SNS上以外での研究は非常に大きな意味を

¹ 米川明彦（1997）『若者ことば辞典』東京堂出版などにより定義されている。

² 松島（2017）において、Twitter、LINE、Instagramが調査の対象とされている。

持つのではないかと考える。そのため、本研究では、従来とは異なる接尾辞「み」の用法が口語においてどの程度使用されるようになっているのかという口語においての使用状況の実態、これまであまり研究がされてこなかった使用者本人の意図を探るところに研究の余地があると考え。

3. 研究対象

従来とは異なる接尾辞「み」の用法の使用者は主に若者であるとされている。本研究でも、同様に考えているため米川（1997）の若者語の定義の範囲である10代から30代前後の女性を研究の対象としたい。対象とする語は、『日本国語大辞典』を基に正用のもは除き、従来とは異なる接尾辞「み」の用法であると判断されるものだけを研究の対象とする。語基については制限せず、従来とは異なる接尾辞「み」の用法であるものはすべてを対象とする。

4. 研究方法

本学の学生へ従来とは異なる接尾辞「み」の用法の使用頻度や使用場面、使用意図に関するアンケート調査を行う。アンケート結果を集計し、分析することで口語においての使用状況の実態、従来とは異なる接尾辞「み」の用法を使用する使用者本人から得られた使用意図について考察していくこととする。

5. アンケート調査

5.1. 調査の概要

調査は、2019年10月23日と2019年10月24日の2日間にかけて実施した。調査対象者は、本学の日本文学科で後期に開講されている日本語教育発展演習Ⅱ、日本語教育概説Ⅱ、文学語学入門セミナーBを履修している学生103名である。アンケートは、裏表印刷のA3用紙1枚、表のみ印刷のA4用紙1枚の計5ページからなる紙媒体で作成したものを使用した。選択肢から単一回答で回答してもらうか複数回答で回答してもらうものを主とし、例を見て回答してもらう記述式、自由記述の形を採用している。選択肢の回答でその他を選んだ場合は、回答を記入してもらった。アンケートの選択肢および例は、先行研究、事前調査の結果を踏まえ作成したものである。

5.2. 調査の項目と目的

アンケートの構成は、i からviまでの6部構成としている。以下からは、アンケート調査の項目を載せ、項目ごとの目的を述べることとする。

i. あなた自身のことについてお答えください。

- 性別 1. 男性 2. 女性
○年齢 1. 15～19歳 2. 20～25歳 3. 26～30歳

i では、回答者の性別と年齢を把握することを目的としている。

ii. 「○○み」という言葉についてお聞きします。

- ① 「○○み」という言葉を知っていますか。
1. 知っている 2. 知らない (VIの回答へ)
- ② 「○○み」という言葉を使用しますか。
1. よく使用する 2. たまに使用する
3. 耳にはするが自分では使用しない (ii ⑤の回答へ)
- ③②で1.よく使用する、2.たまに使用すると回答した方にお聞きします。
使用するようになったのはいつ頃からですか。
1. 最近 2. 1年前くらい 3. 2年前くらい 4. 3年前くらい
5. 4年前くらい 6. それ以前
- ④③で6. それ以前と回答した方はこちらに何年前くらいだったか、使用していた言葉は何であったかをご記入ください。(記述)
- ⑤よく耳にするようになったのはいつ頃からですか。
②の選択肢に同じ。
- ⑥⑤で6. それ以前と回答した方はこちらに何年前くらいだったか、耳にしていた言葉は何であったかをご記入ください。(記述)

ii では、従来とは異なる接尾辞「み」の用法をどの程度の人が認知しているかおよび使用しているか、使用されようになった時期はいつ頃なのかについて探ることを目的としている。

iii. 「○○み」という言葉の使用場面についてお聞きします。

- ① どのような相手に対して使用しますか。(複数回答可)
1. 友人 2. 先生 3. 家族 4. 目上の方 5. SNSのフォロワー

6.その他

②どのような場面で使用しますか。(複数回答可)

- 1.Twitter 2.LINE 3.Instagram 4.友人との会話
5.目上の方との会話 6.その他

iii では、回答者が従来とは異なる接尾辞「み」の用法を口語においても使用をしているかを探ることを目的としている。

iv. あなたが「○○み」という言葉を使う場合についてお聞きします。

①「○○み」という言葉に接続している「み」が、本来ならば限られた形容詞（厚み、高みなど）にしか使用されないものだと知っていますか。

- 1.知っている 2.知らない

②あなたが、「○○み」という言葉を使用する理由は何ですか。(複数回答可)

- 1.表現を和らげるため 2.会話を面白くするため 3.断定的な言い方を避けるため 4.個人的な感覚であることを示すため
5.そっけなさを解消するため 6.さまざまな言葉に使用でき、便利であるため 7.みんなが使用しているため 8.その他

③次の(1)～(4)の言葉を使用する理由は何ですか。(複数回答可)

- (1) やばみ、うれしみなど(形容詞に「み」をつける場合)
(2) わかりみ、疲れみなど(動詞に「み」をつける場合)
(3) ジャムみ、星野源み、沖縄みなど(名詞や人名に「み」をつける場合)
(4) サクみ、ホカみなど(オノマトペに「み」をつける場合)

※(1)～(4)の選択肢は以下のものである。

- 1.表現を和らげるため 2.会話を面白くするため 3.そっけなさを解消するため 4.個人的な感覚であることを示すため 5.断定的な言い方を避けるため 6.みんなが使用しているため 7.「っぽい」「～みたい」と同じ意味を表すため 8.短く簡潔に話すため
9.その他

④「○○み」という言葉をどのような意味で使用していますか。(記述)

⑤最近、使用した「〇〇み」は何ですか。最近使用したものを1つあげてください。

使用した言葉、使用した相手、使用した場面、使用した意図について記述してもらおう。

ivでは、従来とは異なる接尾辞「み」の用法を使用する使用者が接尾辞「み」の本来の意味を理解しているかを探ること、回答者が最近どのような従来とは異なる接尾辞「み」の用法を使用したか、どのような意図で使用しているかを探ることを目的としている。

v. 「〇〇み」という言葉とマスメディアについてお聞きます。

①「〇〇み」という言葉を次の媒体で目にした、耳にしたことはありますか。(複数回答可)

1. テレビ 2. ラジオ 3. 新聞 4. 雑誌 5. 広告 6. 目にした、耳にしたことはない

②①で1.2.3.4.5を回答した方にお聞きます。目にした、耳にした言葉は何でしたか。(記述)

③最近、目にした、耳にした「〇〇み」という言葉があれば教えてください。(媒体、本、小説、アニメ、歌、YouTube、日常会話など、どのような場面でも構いません。)(記述)

vでは、従来とは異なる接尾辞「み」の用法がSNS上以外でどの程度使用されているのか、またどのような媒体で使用されているのかを探ると同時に、最近使用されているもの、使用されている言葉などの情報を回答者に協力してもらい収集することを目的としている。

vi. iiの①で2.知らないと回答した方だけにお聞きます。回答をご記入ください。

①次の1～3の言葉を見てどのような印象を受けますか。(記述)

1. ねむみ 2. やばみ 3. サクみ

②あなたがAさんと会話しているときに、Aさんが次のように返答したらどのように感じますか。(記述)

あなたとAさんの会話

あなた：犬ってかわいいよね。ずっと見てられない？
Aさん：わかりみが深い。

viは、従来とは異なる接尾辞「み」の用法を知らない人が、従来とは異なる接尾辞「み」の用法をどのように感じるのか、言葉の印象について探ることを目的としている。

以上がアンケートの項目と目的である。

5.3. 調査結果と分析

ここでは、アンケート調査によって得られた結果を表にして示すこととする。アンケート用紙には1から103の番号が付してある。記述、その他の回答を取り扱う際にはデータ番号を用いる。記述は、総数が多いためすべての回答を示さず、類ごとにわけ、傾向を示すこととする。類ごとにわけ、傾向を示すものは、2つ以上回答があったものである。その他の回答については、回答人数が10以下のものはすべて結果を示すが、11以上のものについては回答を類ごとにわけ、傾向を示すこととする。記述、その他の回答で見られた単一の回答は、すべて結果を示すこととする。回答については誤字脱字、記号も含め回答者の回答をそのまま示す。表は、その他、無回答、単一で見られた回答、データとしない回答を除き人数の多い順となっている。Nで示しているのは回答者の総数である。

以下より、5.2.調査の項目と目的の順に従い調査の結果と分析を示していくこととする。

i. 性別

表1. 性別 N=103

性別	人数
女性	103
男性	0

ii. 年齢

表2. 年齢 N=103

年齢	人数
15～19歳	78
20～25歳	24
26～30歳	1

性別は、本学の学生を対象としているため表1のような結果となった。年齢は表2の通りである。本研究では、10代から30代前後を研究対象としてい

るため、表2で得られたすべての年齢を対象とする。

ii.①

従来とは異なる接尾辞「み」の用法の認知度は、右記の表3のような結果となった。103名中102名が知っていると回答したことから考えると従来とは異なる接尾辞「み」の用法は、かなり多くの人に認知されているということが分かるのではないだろうか。

表3. 認知度 N=103

認知度	人数
知っている	102
知らない	1

ii.②

iiの②は、iiの①で知っているとは回答した人にもみ尋ねているため、回答者の総数は102名となる。右記の表4を見ると、たまに使用するが全体の50%、耳にはするが自分では使用しないが全体の32%、よく使用するが全体の18%となっていること

表4. 使用頻度 N=102

使用頻度	人数
たまに使用する	51
耳にはするが自分では使用しない	33
よく使用する	18

が分かる。表3で、多くの人に認知されていることが分かったが、耳にはするが自分では使用しないと回答した人が全体の32%を占めていることから考えると、認知度と使用度は等しいものではないということが伺える。

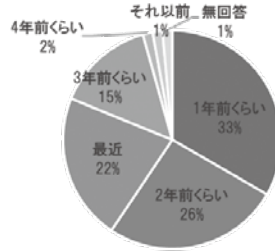
ii.③

iiの③は、iiの②でよく使用する、たまに使用すると回答した人に尋ねているため、よく使用する18名とたまに使用する51名を足した69名が対象の質問となる。そのため、回答者の総数は69名となる。

表5. 使用するようになった時期

N = 69

時期	人数
1年前くらい	23
2年前くらい	18
最近	15
3年前くらい	10
4年前くらい	1
それ以前	1
無回答	1



グラフ1. 使用するようになった時期の割合

上記の表5、グラフ1からは、従来とは異なる接尾辞「み」の用法を使用するようになった時期がわかる。1年前くらいが最も多いという結果になっているが、2年前くらいが全体の26%、最近が全体の22%、3年前くらいが全体の15%という結果になっていることから考えると、従来とは異なる接尾辞「み」を使用する使用者が使用するようになったと認識する時期はさまざまであり、ばらつきが見られることがわかる。だが認識としては、ここ2、3年つまりは2016年から2019年にかけて使用者の間で使用していると広く認識されるようになってきたことが伺える。

ii.④

iiの④では、iiの③でそれ以前と回答した人にもみ尋ねているため、回答者の総数が1名となっている。下記の表6を見ると2014年から「ねむみ」という言葉が使用されていたことが分かる。

表6. ii③のそれ以前の回答

N = 1

データ番号	何年前くらい	使用していた言葉
28	5年前くらい	ねむみ

ii.⑤

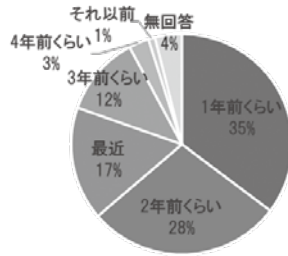
iiの⑤は、iiの①で知っているとして回答した人に尋ねているため、回答者の総数は102名となる。

下記の表7、グラフ2からは、従来と異なる接尾辞「み」の用法を耳にするようになった時期が伺える。iiの③で示した表5、グラフ1と重なる部分が多くあり、耳にするようになった時期についても1年前くらいが最も多く、2年前くらいが全体の28%、最近が全体の17%、3年前くらいが全体の12%を占めていることから考えると、認識にはばらつきがあるように思われる。しかしながら、耳にするようになったと感じられるようになった時期も2016年から2019年にかけて見られることを考えると、2016年から2019年にかけて使用状況に大きな変化が見られたと言って良いのではないだろうか。

表7. 耳にするようになった時期

N = 102

時期	人数
1年前くらい	36
2年前くらい	29
最近	17
3年前くらい	12
4年前くらい	3
それ以前	1
無回答	4



グラフ2. 耳にするようになった時期の割合

ii.⑥

iiの⑥は、⑤でそれ以前と回答した人に何年前くらいから耳にしていたか、耳にしていた言葉は何であったかを尋ねる質問であったが、⑤でそれ以前と回答した回答者が無回答であったため、結果が得られなかった。

iii.①（複数回答可）

iiiの①からivの⑤までは、iiの②でよく使用する、たまに使用すると回答した人にもみ尋ねる質問であるため、回答者の総数は69名となる。

表8. 使用相手

人数の最大は69

使用相手	人数
友人	67
SNSフォロワー	43
家族	23
先生	1
目上の方	0
その他	1
無回答	1

表9. iii①のその他の回答

N=1

データ番号	回答
23	アイドルへのファンレター

上記の表8で従来とは異なる接尾辞「み」の用法を友人に対して使用する人が67名、家族に対して使用する人が23名いることから考えると、TwitterやInstagramなどのSNS上のみで使用されていた言葉ではなくなっているということが分かるのではないだろうか。だが、SNSを利用しているか、していないかの質問を用意しなかったため、SNSを利用していなくても、従来とは異なる接尾辞「み」の用法を使用している人がいると断定することはできない。

iii.②（複数回答可）

下記の表10からは回答者69名中65名が友人との会話で従来とは異なる接尾辞「み」の用法を使用していることが分かる。また、TwitterやInstagramなどに比べ、より日常会話に近い形で使用されると考えられるLINEにおいて使用されていることから、日常会話で使用されていることがよく分かるのではないかと思われる。

表10. 使用場面

人数の最大は69

使用場面	人数
友人との会話	65
LINE	59
Twitter	38
Instagram	25
目上の方との会話	0
その他	1
無回答	1

表11. iii②のその他の回答

N = 1

データ番号	回答
34	家族との会話

iv.①

従来とは異なる接尾辞「み」の用法に使用されている接尾辞の「み」は本来ならば、限られた形容詞に接続されるものだと知っているかを尋ねたところ、右記の表12のように知っているが全体の67%を占める結果となった。知らないは全体の32%、無回答が1%を占めている。そのため、ほとんどの使用者が従来とは異なる接尾辞「み」が本来は限られた形容詞にしか使用されないものであるということを知っている上で使用しているということが分かる。今回の調査対象者は日本語教育について学ぶ、日本語に対して比較的関心の高い人を対象としていることも関係している可能性があるが、本来の意味を理解し、言葉を変化させ楽しんでいる人も多いことが伺える。

表12. 本来の意味の認知度

N = 69

認知度	人数
知っている	46
知らない	22
無回答	1

iv.②（複数回答可）

下記の表13、14からは、従来とは異なる接尾辞「み」の用法を使用する使用者が表現を和らげるため、会話を面白くするため、さまざまな言葉に使用でき、便利であるためであるため従来とは異なる接尾辞「み」の用法を使用していることが分かる。加えて、好きなアイドル、有名人が使用しているから使用するという結果を得ることができたことから、言語を使用する理由として、好きな人の言葉を真似たいという意識が関係すること、芸能人、有名人の影響も強く受けるということが伺えるのではないだろうか。

表13. 使用理由

人数の最大は69

使用理由	人数
表現を和らげるため	35
会話を面白くするため	32
さまざまな言葉に使用でき、便利であるため	29
みんなが使用しているため	19
そっけなさを解消するため	10
断定的な言い方を避けるため	10
個人的な感覚であることを示すため	11
その他	6
無回答	1

表14. 使用理由のその他の回答

N=6

データ番号	回答
23	好きなアイドル（永瀬廉くん）が「しんどみちゃん」をよく使うから、マネしています。
34	7の理由から、友人同士で通じやすいから。
50	けみおという好きな有名人が多用しているため
61	「やばい」などでみをつけずに表現しきれない感情を相手に伝えるため
78	～みがすぎるといったニュアンス
89	その形容詞を強調するため やばみ→とてもやばい、つらみ→とてもつらい その他【人名】み→【人名】らしさを感じる

iv.③（複数回答可）

下記の表15から表22では、従来とは異なる接尾辞「み」の用法の使用理由を語基ごとにわけ、質問した結果である。

(1) の形容詞、(2) の動詞に従来とは異なる接尾辞「み」がつく場合は、使用しない、聞いたことがないと回答した人が0名だったのに対し、(3) の名詞や人名、(4) のオノマトペに従来とは異なる接尾辞「み」がつく場合は、使わない、聞いたことがないという回答があった。特に

(4) のオノマトペの場合は多く、従来とは異なる接尾辞「み」の用法は、語基により認知度と使用度が大きく変わるということが伺える。回答者が使用している前提で選択肢を用意していたため、使わない、聞いたことがないは選択肢として挙げていなかった。そのため、普段は使用しない人も選択肢から強制的に選択した可能性がある。選択肢の中に、使わない、聞いたことがないが挙げられていれば大きくデータが変わっていた可能性がある。

使用する理由としては形容詞、オノマトペの場合において会話を面白くするため、動詞の場合において表現を和らげるためという理由が上位にきていることが分かる。名詞や人名の場合においては、「っほい」「～みたい」と同じ意味を表すためという理由が多いことが分かる。そのため、語基により使用意図が異なるということも伺える。

表15. (1)形容詞の場合

人数の最大は69

使用理由	人数
会話を面白くするため	30
表現を和らげるため	26
「っほい」「～みたい」と同じ意味を表すため	26
みんなが使用しているため	17
個人的な感覚であることを示すため	11
短く簡潔に話すため	10
そっけなさを解消するため	7
断定的な言い方を避けるため	9
その他	3
無回答	2

表16. (1)のその他の回答

N=3

データ番号	回答	人数
19	普通よりそう思っている風に聞こえるから	1
56	うまみみたいな感じのニュアンスで	1
61	その後に言葉が続くから名詞(?)にする例) やばみが深い	1

表17. (2) 動詞の場合

人数の最大は69

使用理由	人数
表現を和らげるため	30
会話を面白くするため	21
みんなが使用しているため	19
「っほい」「～みたい」と同じ意味を表すため	16
個人的な感覚であることを示すため	11
短く簡潔に話すため	11
そっけなさを解消するため	9
断定的な言い方を避けるため	5
その他	4
無回答	1

表18. (2) のその他の回答

N = 4

データ番号	回答	人数
19	普通よりそれっぽく聞こえるから	1
34	使わないです	1
56	共感度を上げるため	1
61	(1) と同じ	1

表19. (3) 名詞や人名の場合

人数の最大は 69

使用理由	人数
「っほい」「～みたい」と同じ意味を表すため	35
会話を面白くするため	10
個人的な感覚であることを示すため	6
短く簡潔に話すため	4
表現を和らげるため	2
断定的な言い方を避けるため	2
みんなが使用しているため	2
そっけなさを解消するため	1
その他	17
無回答	4

表20. (3)のその他の回答

N=17

データ番号	回答	人数
5	あまり使用しない	データ番号5、6、20と同様の内容の回答が13
6	使わない	
20	名詞・人名にはつけない	
75	聞いたことがない	1

表21. (4)オノマトペの場合

人数の最大は 69

使用理由	人数
会話を面白くするため	12
表現を和らげるため	8
「っほい」「～みたい」と同じ意味を表すため	8
みんなが使用しているため	6
短く簡潔に話すため	5
個人的な感覚であることを示すため	4
断定的な言い方を避けるため	2
そっけなさを解消するため	1
その他	30
無回答	7

表22. (4)のその他の回答

N=30

データ番号	回答	人数
6	使わない	データ番号6、20、23と同様の内容の回答が25
20	オノマトペにもつけない	
23	言わない	
1	初めて見ました	1
62	その他で無回答	1

iv.④ (記述)

ivの④では、従来とは異なる接尾辞「み」の用法の使用理由を語基を限らず尋ねた。

表23. 使用する理由

N=69

データ番号	回答	人数
6	特に意味はない	データ番号6、9、41と同様の内容の回答が ² 22
9	特に深い意味はない	
41	なんとなく使用しているので深い意味はありません。	
2	〇〇っぽいと同じ意味で使用している	データ番号2、38と同様の内容の回答が ⁹ 9
38	～っぽいというようなニュアンスで使用している。	
15	やわらかい表現になる気がする。あまり意識はしていない	データ番号15、39、57と同様の内容の回答が ⁴ 4
39	なんとなく言葉がかわいい気がする。	
57	・表現を和らげトゲのある言葉にならないように。 ・その要素を少しだけ匂わせているというニュアンスを伝えるため ・ことばのかわいらしさ	
5	軽く返事をしているようで深い意味に聞こえるため、そういう意味で使用している。	
56	強調性をだすため？よく分かりません	データ番号5、56と同様の内容の回答が ³ 3
42	特に意味はないが、今らしい表現で面白いから。	データ番号42と同様の内容の回答が ¹ 1
35	短くするためになんとなく使用している。	データ番号35と同様の内容の回答が ¹ 1
単一で見られた回答		14
無回答		3

上記の表23からは従来とは異なる接尾辞「み」の用法を使用するとき、ほ

とんどの使用者は、特に意図を持って使用をしていないことが伺える。意図を持つものとして多く挙げられたのは、「○○っぽい」というニュアンスを出すためという内容の回答である。このことから考えると使用者はやわらかい表現や曖昧な表現にすることを意図的に行っていることが伺える。だが、表23のデータ番号5のように、やわらかい表現にするためではなく、言葉に深みを持たせたい、言葉を強調させたいという意味で使用している人があることも分かるのではないだろうか。

下記の表24のデータ番号23を見ると『日本国語大辞典』で立項されている「おもしろみ」という言葉が従来とは異なる接尾辞「み」の用法として認識されているということがわかる。「おもしろみ」と同様に挙げられている「つらみ」は、『日本国語大辞典』で立項されているが、その意味は現代の若者が使う「つらみ」の意味とは異なるように思われる。また、松島（2017：132）では「従来、「うらみつらみ」の一セットで使われていたものが、一つの独立した言葉として確立している。」と述べられている。そのため本研究では、「つらみ」を従来とは異なる接尾辞「み」の用法として扱うこととする。また、表24でデータ番号33、データ番号34、データ番号88のような回答があることから考えると緩衝の機能を持たせようとする意図が伺える。

表24. 単一で見られた回答

N=14

データ番号	回答
3	特に深い意味はないが、会話が楽しくなるから使っている
7	SNSでよく目にするのでなんとなく使っている。
23	～な。という意味。 ex) つらみ (つらいな～) / おもしろみ (おもしろいな～)
25	～さ (程度) の意味or特に意味はない
26	なんとなく使用している。～みは感覚的なイメージがある。
33	～みたいなのというニュアンスで使うことが多い
34	「～的 (な)」の意味
43	おもしろいから
61	〇〇の名詞 (?) として使う
79	けみおが使っていてカワイイと思ったから。
84	形容詞的に、感想を伝えるために使用している。
85	非常に、たいへんという意味を含めて使っている
88	～ほいか和らげるためか～みが深いと言って強調するため
92	～のどという意味で使うことが多い。眠み=眠いのでのように

iv.⑤ (記述)

ivの⑤では、最近使用した従来とは異なる接尾辞「み」の用法を使用した言葉、使用した相手、使用した場面、使用した意図についてそれぞれ記述してもらった。ここでは、使用した言葉 (表25、表26)、相手 (表27)、場面 (表28)、意図 (表29、表30) にわけ、回答をまとめ傾向を示すこととする。使用した意図については、使用した言葉と共に示す。使用した相手の回答個所に「ヤバみ」のように記入されているなど、質問と回答が一致しないものは、データとしない回答として扱うこととする。また、表25で見られた、「尊み」は『日本国語大辞典』で立項されており、その意味も現代の若者が使用するものと同じものだと考えられる。そのため、本研究では「尊み」を正用ということにする。

表25. 使用した言葉

N=69

使用した言葉	人数
やばみ (「ヤバみ」含む)	22
わかりみ (「分かりみ」含む)	12
ねむみ	6
つらみ (「ツラみ」含む)	4
しんどみ	3
あげみ	2
尊み	2
単一で見られた回答	13
無回答	4
データとしない回答	1

表26. 使用した言葉の

単一で見られた回答

N = 13

使用した言葉	
わかりみが深い	うれしみ
おけみ	帰りたいみ (が強い)
おはみ	ありえんよさみが深い
つかれみ	わろみ
さむみ	うざみ
だるみ	岸さんみ
あげみ	

上記の表25を見ると、最近使用した言葉で「やばみ」と回答した人が22名で、全体の32%を占めていること、「わかりみ」と回答した人は12名で、全体の17%を占める結果となった。様々な回答がみられる中でまとまった数字として表れたことを考えると「やばみ」、「わかりみ」という言葉が多くの人に使用されているということが伺えるのではないだろうか。また、表26では「おけみ」という言葉が見られた。この「おけみ」は英語の「OK」から日本語で「おけ」と使われるようになったものに「み」が接続されたものであると考えられる。

表27. 使用した相手 N=69

使用した相手	人数
友達、友だち、友人、友	50
妹	3
フォロワー	3
SNS	2
彼氏	1
ヲタク友達	1
父	1
無回答	4
データとしない回答	4

表28. 使用した場面 N=69

使用した場面	人数
日常会話、ふつうの会話、 会話、会話中、日常	40
LINE、ライン、LINEでの会話	8
Twitter	3
InstagramのDM、インスタ	2
日常会話&LINE	1
SNS	1
電話	1
好きな動画をみている時	1
ちょっとうざかった時	1
推しに沸いた時	1
無回答	4
データとしない回答	6

上記の表27では、友達と回答した人が69名中50名と全体の72%を占める結果となった。また、表27の結果を見ると、友達、妹、彼氏などといった親密な関係の間で使用されていることが伺えるのではないかとと思われる。

表28の使用した場面では、日常会話がTwitterやLINE、InstagramなどのSNSを大きく上回る結果となった。最近使用した言葉を使用した場面で、日常会話と回答した人が多かったことを考えると、従来とは異なる接尾辞「み」の用法が日常会話において浸透してきているということが分かるのではないだろうか。

表29. 使用した意図

N=69

データ番号	使用した言葉	使用した意図	分類	人数
21	しんどみ	言葉をよりやわらかく表現するため。	表現を和らげるため	データ番号21と同様の内容の回答が8
19	わかりみ	特に意味はない	意味はない、理由なし	データ番号19と同様の内容の回答が7
1	岸さんみ	岸投手に似ていたから	言葉に伴う意図	データ番号1のような内容の回答が6
7	つらみ	冗談っぽく受け取ってほしかったから。	冗談のようにするため	データ番号7と同様の内容の回答が5
13	やばみ	語尾になんとなくつけた	なんとなく	データ番号13と同様の内容の回答が5
9	やばみ	相手がよく使う人だったから	相手が使うため	データ番号9と同様の内容の回答が2
30	やばみ	しんこくさをあまりださないよう。	深刻さを出さないため	データ番号30と同様の内容の回答が2
75	わかりみ	言いやすい	言いやすい、使いやすいため	データ番号75と同様の内容の回答が2
62	わかりみ	わかりみが深い←この深いをつけるため	深いを接続させるため	データ番号62と同様の内容の回答が1
36	やばみ	やばさがより伝わるかなと思い使用。	強調するため	データ番号36と同様の内容の回答が1
38	やばみ	「やば」よりも「やばみ」の方がそっけなさが無いから	そっけなさを解消するため	データ番号38と同様の内容の回答が1
単一で見られた回答				14
無回答				4

表30. 使用した意図の単一回答

N = 14

データ番号	使用した言葉	使用した意図
14	あげみ	興奮した時に出る
15	わかりみ	語尾がのびる「る」で終わるよりイ段のほうがかわいい
20	ねむみ	特に意図はない感覚的に何も考えず使ってしまった。
25	おけみ	有名人が使っているのが耳に残っていたから。
34	つらみ	実際はそんなにつかれたと思っていないけど使う。
35	やばみ	楽しく話すため
43	だるみ	おもしろいから
50	わかりみが深い	ヤバTの曲の話
56	やばみ	みんな使うから
72	うれしみ	敬語を使わない場面がかつ相手に親しみを持ってもらうため。
74	帰りたみ (が強い)	ただ「帰りた」と言うよりも伝わりやすいと思ったから。
79	やばみ	話が盛り上がったから
86	覚えてないです	
91	やばみ	意味は無い癖

上記の表29は最近使用した言葉の使用した意図を分類し、まとめたものである。表29を見ると表現を和らげるため、冗談のようにするため、深刻さを出さないため、そっけなさを解消するためなど、言葉を緩衝的に表現したいという使用者の意図があることがわかる。また、表29で特に意味はない、なんとなく、言いやすいと回答した人がいること、表30のデータ番号15「語尾がのびる「る」で終わるよりイ段のほうがかわいい」、データ番号43「おもしろいから」などの回答があることから語呂の良さや言葉の可愛さ、言いやすさがあるため使用しているという使用者の意図が伺えるのではないだろうか。

v.①（複数回答可）

vの①では、最近マスメディアにおいて目にした、耳にした従来とは異なる接尾辞「み」の用法はあるかを尋ねた。その結果、右記の表31のようになった。テレビで目にした、耳にしたことがあるという回答が全体の43%を占める結果となった。雑誌、ラジオ、広告においても目にした、耳にしたことがある人がいるということから、かなり使用が拡大してきていることがわかるのではないだろうか。だが、マスメディアにおいて目にしたこと、耳にしたことはないという回答が全体の30%占めていることから考えると、まだまだ使用の範囲は限られているということが伺える。

また、新聞において回答が得られなかったことは、新聞に触れる機会が少ないであろう大学生に尋ねているということも影響しているのではないかと考えられる。

v.②

vの②は、具体的な回答があったものの結果を示す。vの①でテレビは53名の回答があったがここで回答があったのは39名であった。そのうち、37名の回答をデータとして扱う。vの②で雑誌は20名の回答があったがここで回答があったのは11名であった。そのうち、2名の回答をデータとして扱う。vの①でラジオは5名の回答があったがここで回答があったのは3名であった。vの①で広告は4名の回答があったが、ここで回答があったのは1名であった。ラジオ、広告の回答はすべてをデータとして扱う。

表31. 使用されている媒体
人数の最大は102

マスメディア	人数
テレビ	53
目にした、耳にしたことはない	36
雑誌	20
ラジオ	5
広告	4
新聞	0
無回答	5

表32. テレビ

N = 39

データ番号	回答	人数
1	タレント（ゆきぼよ、みちよば）がやばみと使っていた	データ番号1、22と同様の内容の回答が22
22	バラエティ番組で芸能人が「やばみ」と話していた。	
5	昼の番組で特集をしていた。	データ番号5、17と同様の内容の回答が3
17	テレビで「尊み」と言っていた。また、テレビで「いみ」となぜつかうのかについてやっている番組があった。	
87	テレビのインタビューで「わかりみ」と答えた女性がいた。	データ番号87と同様の内容の回答が3
38	ドラマ「3年A組」で「わかりみが深い」という台詞が言われていた。	データ番号33、103と同様の内容の回答が1
103	ドラマ「おっさんずラブ」で部長がヤバみ～とか言っていた気がする。 (ちがうかも) その他諸々。よく覚えていません。	
具体的な記述がないためデータとしない回答		3

上記の表32を見ると、テレビで従来とは異なる接尾辞「み」の用法が使用される場合はバラエティ番組においてタレントが使用しているということが分かる。また、回答として最も多く見られたものは、表32のデータ番号1、「タレント（ゆきぼよ、みちよば）がやばみと使っていた」のような、ゆきぼよ（木村有希）、みちよば（池田美優）が使用していたという回答である。木村有希は現在23歳³、池田美優は現在21歳⁴であることから考えると、若い年代のタレントがテレビにおいて使用しているということが伺える。データ番号5、「昼の番組で特集をしていた。」からは、若者の言葉であるという認識がされているため、特集が組まれたのではないかと考えられる。

³ 所属事務所ホームページ (<http://www.vip-model.com/models/kimurayuri.html>) より

⁴ 所属事務所ホームページ (<http://ikedamiyu.jp/>) より

表33. 雑誌

N=11

データ番号	回答	人数
20	雑誌で「かわいみ」が使われていた。「non-no」「ar」	1
72	『アニメージュ』で「わかりみ」が使われていた。	1
	具体的な記述がないためデータとしない回答	9

上記の表33からは、『non-no』⁵、『ar』⁶というファッション雑誌、『アニメージュ』⁷というアニメ雑誌において従来とは異なる接尾辞「み」の用法が使用されていることがわかる。雑誌のどのような場面、タレントへのインタビューで使われていたのか、見出しとして使用されていたのかなどについては具体的な記述がなかったため定かではないが、主に若者を狙った雑誌において使用されているということがわかる。

表34. ラジオ

N=3

データ番号	回答	人数
1	タレントがやばみと使っていた	1
50	「ヤバみやわかりみが深いとコメントしていた。」	1
102	有吉さんが「テンションあげみ」と言っていた。	1

上記の表34からは、ラジオにおいてタレントが従来とは異なる接尾辞「み」の用法を使用していたということがわかる。データ番号102の「有吉さんが「テンションあげみ」と言っていた。」という回答からは、ラジオを行っている、お笑い芸人の有吉弘行が使用していたと考えられる。有吉弘行は、現在45歳⁸であることを考えると、本研究で若者とする範囲である10代から30代前後には当てはまらない。だが、若者の範囲ではない人の使用があることを考えると、従来とは異なる接尾辞「み」の用法が世代を問わず認知されている可能性があるのではないかと考えられる。

⁵ 集英社より出版されている女性向けのファッション雑誌である。

⁶ 主婦と生活社より出版されている女性向けのファッション雑誌である。

⁷ 徳間書店より出版されているアニメ雑誌である。

⁸ 所属事務所ホームページ (<https://www.ohtapro.co.jp/talent/ariyoshihiroiki.html>) より

表35. 広告

N=1

データ番号	回答	人数
59	メイク系の広告でヤバみが使われていた。	1

上記の表35からは、広告においても従来とは異なる接尾辞「み」の用法が使用されていたことが分かる。だが、テレビなどと比べ、情報が少ないことから考えると使用されている頻度はかなり少ないことが伺える。

下記の表36はテレビ、雑誌、ラジオ、広告のいずれにも属さないその他の回答である。表36からは、マスメディアではないが、YouTubeやアーティストの曲、漫画において従来とは異なる接尾辞「み」の用法が使用されていることが分かる。

表36. vの②その他の回答

N=12

データ番号	回答	人数
19	Kemio (YouTuber) が使っていた。	データ番号19、25と同様の内容の回答が2
25	YouTuberのKEMIOさんが「あげみ」と言っていた。	
75	「ヤバみ」「ふかみ」ヤバイTシャツ屋さんが使っていたテレビというよりは、カラオケ屋で聞いた。	データ番号75と同様の内容の回答が1
43	まんがにだるみ〜ってあった。	1
6	覚えていない (すみません)	データ番号6と同様の内容の回答が3

v.③

vの③は、場面や媒体を問わず最近目にした、耳にした従来とは異なる接尾辞「み」の用法を尋ねた。下記の表37は、回答があったものを分類し、使用されていた場面をまとめたものを示すこととする。表38は、その他の回答としてそのまま示したものである。

表37. 最近目にした、耳にしたものの回答

N=102

回答	人数	回答	人数
日常会話	16	TwitterとLINE	1
YouTube	14	会話とSNS	1
言葉のみ（わかりみ、やばみなど）の回答	7	会話とテレビ	1
Twitter	4	YouTubeとInstagram	1
LINE	3	YouTube&曲	1
なし	3	曲	1
会話とYouTube	2	雑誌	1
覚えてない	2	漫画	1
Instagram	1	その他	1
SNS	1	無回答	40

表38. vの③その他の回答

N=1

データ番号	回答
8	1年前くらいにはわりと使われていた気がするが最近耳にしない。

上記の表37からも分かるように、場面や媒体を問わずに最近目にした、耳にした従来とは異なる接尾辞「み」の用法を尋ねたところ、日常会話に次いでYouTubeが多い結果となった。YouTubeという内容の回答の中でもデータ番号3、「YouTubeで「kemio」が「あげみ～」と言っていた。Kemioが流行り出してから、若者を中心に「○○み」が使われるようになった印象がある。」というように、kemio⁹というYouTuberが使っていたという回答が圧倒的に多く見られた。このことから考えると、使用の拡大がみられる1つの要因として、YouTuberのkemioが大きく関わっているのではないかと考えられる。

また、表38のデータ番号8のような回答があることから、従来とは異なる接尾辞「み」の用法を流行語として捉えている人がいるということも分かるのではないだろうか。

⁹ 所属事務所ホームページ (<https://www.miha.co.jp/miha-creators/51/>) より、主にYouTubeを中心として活動する動画クリエイターであることが分かる。

vi.① (記述)

viの①は、iiの①で知らないと回答した人に「1.ねむみ」「2.やばみ」「3.サクミ」という言葉を見てどのように感じるかを尋ねた質問であったため、回答者の総数は1名である。

表39. 言葉を見て感じる印象

N=1

データ番号	回答
97	1.眠いという意味かと思った。 2.大変だという意味かと思った。 3.意味が全く分からない。 } 元の形で話した方が理解しやすいと思う。急に言われるとどういう意味か瞬時に判断できない。分からない。

上記の表39は回答者の回答をそのまま示したものである。表39をみると「ねむみ」、「やばみ」の意味は通じるがオノマトペを語基とする「サクミ」は伝わりにくいということ、従来とは異なる接尾辞「み」の用法を知らない人が目にした時には瞬時に意味を理解することが難しいということが分かる。

vi.②

viの②は、iiの①で知らないと回答した人に従来とは異なる接尾辞「み」の用法を使用した会話を見て感じる印象を尋ねた質問であったため、回答者の総数は1名である。

下記の表40を見ると、従来と異なる接尾辞「み」の用法を知らない人は「わかりみが深い」という返答に対し、会話の前後に違和感を覚えること、言葉の意味が分からず困惑してしまうということが分かる。

表40. 会話を見て感じる印象

N=1

データ番号	回答
97	言語のニュアンスが変な感じがする。前後の関係がおかしいと思う。 犬がかわいい。ずっと見てられる。 =相手の理解が深い? 相手への理解が深い?のように意味の通じていない文に見える。 →ずっと見てられないかという質問の答えになっていない感じがする。

6. 調査結果のまとめと考察

以下からは、アンケート調査で得られた結果から口語における使用状況の実態、使用者本人の意図をそれぞれまとめ、考察していくこととする。

6.1. 口語における使用状況の実態

口語において、従来とは異なる接尾辞「み」の用法は非常に多く使用されているということが今回のアンケート調査により明らかになった。5.3.調査結果と分析のiii②、表10を見ても分かるが、友人との会話で使用していると回答した人が69名中65名とTwitter、LINE、InstagramなどのSNSを押さえ、一番多い結果となったのである。さらに、ivの⑤、表28においても日常会話が一番多い結果となった。ivの⑤は最近使用した従来とは異なる接尾辞「み」の用法について、使用した言葉、相手、場面、意図について尋ねたものであるため、日常会話における使用頻度が高いということがいえるのではないだろうか。また、テレビやラジオといったマスメディア、YouTubeにおいて芸能人や有名人などが使用していたという回答が多数あったことから考えると、従来とは異なる接尾辞「み」の用法は口語としてかなり広い範囲で浸透してきていると考えられる。だが、口語に限り使用頻度について尋ねた質問がなかったため、口語では使用せず、SNS上でしか使用しないという人がいる可能性もあると考えられる。また、米川（1997:250）において、「若者語は使用について個人差が激しく、言語意識の差が大きい。」と述べられている。そのため、iiの①、表3の従来とは異なる接尾辞「み」の用法の認知度とiiの②、表4の使用頻度が等しくないように、口語における使用状況にも個人差があるのではないかと考えられる。加えて、ivの③の調査結果からもわかるように語基における使用状況にも大きな差があると考えられる。そのため、従来とは異なる接尾辞「み」の用法は、動詞、形容詞を語基とするものは広がりを見せていくが、名詞や人名、オノマトペを語基とするものは衰退していく可能性があると考えられる。

また、口語に限られたことではないが、従来とは異なる接尾辞「み」の用法の初出は、2.2.使用状況の実態でも述べたが先行研究において2007年であるとされており、そこから徐々に拡大し、現時点の2019年までに残る言葉となっていることが分かる。このことから考えると、従来とは異なる接尾辞「み」の用法は一時的に広まりを見せ、使われなくなっていく流行語ではな

いということがいえる。だが、若者の間だけで使用されるものとして終わってしまう、若者語として留まるのか、広い世代に広まり、定着していく用法となるのかについては今後も動向を探る必要があるのではないかと考える。

6.2. 使用者本人の意図

従来とは異なる接尾辞「み」の用法を使用する使用者本人の意図は、宇野(2015)において示された形容詞に接続される従来とは異なる接尾辞「み」の用法の意味機能と重なる部分が多くあると考えられる。2.4. 使用者の意図でも述べたが、宇野(2015)において形容詞と接続される従来とは異なる接尾辞「み」の用法は、若者語の7つの機能のうちの娯楽機能、会話促進機能、連帯機能、緩衝機能、浄化機能の5つの機能を備えており、その中でも特に娯楽機能、緩衝機能、浄化機能が最も重要であると述べられていた。5.3. 調査結果と分析のivの②、ivの④、ivの⑤の表29、30の結果を見ると表現を和らげるため使用しているという緩衝機能にあたる意図がどの結果においても一番多くなっている。このことから考えると使用者本人の意図としても、「ぼい」「みたいな」のような曖昧でほかした表現のようにするために従来とは異なる接尾辞「み」の用法を使用しているということが大きいと言えるのではないだろうか。また、ivの④の表24、データ番号3「特に深い意味はないが、会話が楽しくなるから使っている」という使用者本人の意図からは、会話を楽しく盛り上げたいという会話促進機能があると考えられる。加えて、ivの①からは本来の接尾辞「み」の用法を知っている上で言葉を変化させ、遊んでいるということが伺えた。これは米川(1997)で述べられていた娯楽機能にあたるのではないかと推測する。これらのことから、使用者本人の意図について考えると、先行研究で述べられてきた従来とは異なる接尾辞「み」の用法の意味機能の点と重なる部分が多くあると思われる。また、使用者本人の意図は若者語の機能と重なる点が多くあることも分かるのではないだろうか。

これまでの先行研究により述べられてきた意味機能とは重ならない使用者本人の意図としては、次のようなものが挙げられる。一つ目は、好きなアイドル、有名人が使用しているため真似しているという、好きなアイドルや有名人の言葉を真似たいという意識から言葉を使用している意図があることである。これは、みんなが使用しているから使用するといったようなものとは

異なり、好きなアイドルや有名人と同じ言葉を使用することで、親しみや親近感を持ちたいという気持ちの表れではないかと考えられる。二つ目は、特に意図はなく無意識に使用しているということである。このことから、「み」という言葉を実感的にもしくはなんとなくのニュアンスで使用していることが読み取れるのではないだろうか。三つ目は、語基に「み」をつけること、語末を「み」に言い換えることでかわいらしさを感じるため使用しているという意図があったことである。使用者が言葉そのものの音を楽しむために従来とは異なる接尾辞「み」の用法を使用していることが分かるのではないだろうか。また、この三点は、従来とは異なる接尾辞「み」の用法を使用する使用者本人の意図であると同時に、従来とは異なる接尾辞「み」の用法を使用することで得ることができる新しい効果であるといえるのではないかと考える。

7. おわりに

従来とは異なる接尾辞「み」の用法は、SNS上に限らず口語においても使用の拡大が見られてきていることが明らかになった。また、その使用者本人の意図は、これまでのSNS上の研究において示されていた先行研究の意味機能と重なり、緩衝の意味で使用されていることが大きいことも分かった。並びに、使用者本人の意図はさまざまであり、接尾辞「み」の本来の機能を越え、言葉に多くの意味を与えるものとなっていることがより明確になったのではないと思われる。加えて、アンケート調査をすることで使用者本人の意図について探り、従来とはことなる接尾辞「み」の用法の新しい意味機能の発見ができたことはこれからの研究においても非常に大きな意味を持つものとなるのではないかと考える。

8. 今後の課題

本研究の調査では、従来とは異なる接尾辞「み」の用法を使用する使用者の意図についても口語における使用状況の実態についても10代から30歳前後の女学生に限られてしまった。しかし、アンケート調査において、45歳の男性芸能人が使用していたことが分かった。また、テレビCMなどでも耳にするようになったことを考えると、世代を超え、多くの人に認知されている可能性と使用されている可能性があるのではないかと考える。そのため、

今後は性別、年齢を制限せず調査を行い、性別や年齢による使用頻度の差、使用意図の違いはないかなどを調べる必要があると考える。また、今回の調査において従来とは異なる接尾辞「み」の用法の非使用者から得られた結果を活かすことができなかった。そのため、非使用者が受ける印象、容認度などを調査することも今後の課題としたい。

参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワークp.27
- 宇野和（2015）「Twitterにおける「新しいミ形」」『国文』123, 106(1)-94(13), お茶の水女子大学国語文学会.
- 宇野和（2017）「Twitterで見られる名詞に後接する接尾辞ミ：「ぼさ」「らしさ」と比較して」『人間文化創成科学論叢』20, 29-37, お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科.
- 宇野和（2018）「Twitterにみるオノマトベに後接する接尾辞ミの機能」『比較日本学教育研究部門研究年報』14, 183-189, お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所.
- 柴田武（1960）「流行語と言語ボス」『言語生活 6月号』16-24, 筑摩書房.
- 中山緑朗・飯田晴巳・陳力衛・木村義之・木村一編（2009）『みんなの日本語事典一言葉の疑問・不思議に答える一』明治書院.
- 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部（2001）『日本国語大辞典 第二版』2, 1423, 小学館.
- 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部（2001）『日本国語大辞典 第二版』9, 472, 小学館.
- 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部（2001）『日本国語大辞典 第二版』9, 1020, 小学館.
- 松島弥生（2017）「接尾辞“-み”の新用法について」『外国語学会誌』47, 125-133, 大東文化大学外国語学会.
- 水野みのり（2017）「ネット集団語における接尾辞「-み」の語基拡張」『思言：東京外国語大学記述言語学論集』13, 167-174, 東京外国語大学地域文化研究科・外国語学部記述言語学研究室.
- 依田綾乃（2016）「ツイッターに用いられる「-み」の用法」『信大国語教育』

26, 1-12, 信州大学国語教育学会.

米川明彦 (1989) 『叢書・ことばの世界 新語と流行語』 南雲堂.

米川明彦 (1997) 『若者ことば辞典』 pp.240-248, 東京堂出版.

参考URL

IKEDA MIYU Official Site

<http://ikedamiyu.jp/> (最終閲覧日：2020年1月13日)

太田プロダクション タレント 有吉弘行 <https://www.ohtapro.co.jp/talent/ariyoshihiroiki.html> (最終閲覧日：2020年1月13日)

V.I.P MODEL AGENCY MODELS 木村有希

<http://www.vip-model.com/models/kimurayuri.html> (最終閲覧日：2020年1月13日)

女性Creatorで世界を元気に MIHA公式サイト MIHA CREATORS PROFILE Kemio

<https://www.miha.co.jp/miha-creators/51/> (最終閲覧日：2020年1月13日)